

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

総設問数はほぼ同じであった(31→30)。昨年同様に、思考力・判断力を要する設問が含まれており、全体としては同程度の難易度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年から大きな傾向の変化はなく、問題文や図表、グラフを読み取って判断する思考力を要する問題が出題された。

その他トピックス

2020～2024年は各大問がⅠ・Ⅱに分かれていたが、今年は第1～3問のいずれもⅠ・Ⅱに分かれていなかった。

2017～2024年は第1問が有機、第3問が理論の問題であったが、今年は逆になり、第1問が理論、第3問が有機であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述, 論述 計算, 選択	理論	化学基礎 化学	分子間力と沸点 イオン結晶の融点, 金属結晶の融点 分子結晶 蒸気圧降下と沸点上昇 昇華による分離操作	標準
第2問	記述, 論述 計算, 選択	無機, 理論	化学基礎 化学	火山ガスの性質と反応 難溶性塩の溶解度積, 電離平衡 モール法 酸化還元反応 分子の形 複合体形成の平衡	標準
第3問	記述, 論述 選択	有機	化学	ペプチド 検出反応 構成アミノ酸の決定 選択的合成(保護・脱保護, 不斉触媒の利用)	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

数多くの演習問題を解いて、思考力と計算力を養おう。目新しい題材が取り上げられることも多いので、問題文の情報を読み取り、知識や原理・法則と組み合わせて判断する力を養おう。さらに、論述問題の対策も十分に積んでおこう。